

国際共同研究事業
スイスとの国際共同研究プログラム
平成28年度実施報告書

平成29年4月18日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

所属機関・部局 国際基督教大学・教養学部

職・氏名 ^(ふりがな) 准教授・李 勝勲

1. 事業名 国際共同研究事業スイスとの国際共同研究プログラム
2. 研究課題名 (和文) 音声音韻及び 로마字と元文字の新正書法: ヒマラヤの原住民話者への助力
(英文) Phonetics Phonology and New Orthographies: Helping Native Language

Communities in the Himalayas (PhoPhoN0)

3. 共同研究実施期間 (全採用期間)
平成29年2月1日 ~ 平成32年1月31日 (3年0ヶ月)

4. 研究参加者
(1) 日本側参加者 6名 (2) スイス側参加者 3名

5. 主要な物品購入状況 (一品又は一組若しくは一式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様 型・性能等	数量	単価(円)	金額(円)	設置研究機関名
なし					

備考: 50万円以上の物品を購入等した場合のみ記入してください。

6. 人件費使用状況

氏名	金額	雇用期間	専門および本研究における役割
HWANG, Hyun Kyun	35,100 円	平成 29 年 2 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	資料準備 (Tamang, Dzonkha)
BAJRACHARYA, Jiwak Raji	178,100 円	平成 29 年 2 月 10 日～平成 29 年 3 月 31 日	資料準備 (Tamang, Orthography)

備考： 研究者及び専門技術員・研究補助者を雇用した場合のみ記入してください。
雇用期間の欄の記入例：「平成 25 年 6 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日」

7. 渡航実施状況

(a) 日本側参加者（代表者を含む）の国内出張

出張者 (氏名)	出発地 (都市名)	用務先 (都市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
なし					
計 名 (延べ人数)			計 日		

* 旅行期間の欄の記入例：「6 月 10～19 日、10 日間」

** 本経費使用予定の有無を記入すること

(b) 当該年度にスイスを訪問した日本側参加者

出張者 (氏名)	出発地 (都市名)	用務先 (都市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
LEE, Seunghun (李勝勲)	東京	ベルン	3月27日 ～4月4日、 9日間	3年間の研究計画 平成29年の現地調査計画	有
計 1 名 (延べ人数)			計 9 日		

* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」

** 本経費使用予定の有無を記入すること

(c) 当該年度にスイス以外の国を訪問した日本側参加者*

出張者 (氏名)	出発地 (都市名)	用務先 (国名・都 市名)	旅行期間**	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担***
なし					
計 名 (延べ人数)			計 日		

* 外国出張の渡航先は原則としてスイスのみとします。ただし、当該共同研究の研究成果発表を目的とする学会等への出席や、フィールドワーク等で当該第三国へ行くことが必須である研究上の理由がある場合に限り、スイス以外の国を訪問することが可能です。

** 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」(現地到着日～現地出発日)

*** 本経費使用予定の有無を記入すること

(d) 当該年度に受入れたスイス側参加者

出張者 (氏名)	用務先	旅行期間*	用務
なし			
計 (延べ人数)		計 日	

* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」（来日日～離日日）

8. 研究実施状況

※ 申請書の内容及び当該年度実施計画書の「6. 本年度実施計画の概要」と対応させつつ、当該年度の研究の実施状況を簡潔に日本語にて記入してください。

このプロジェクトは、博士課程修了者 (Dr. Hwang) および博士後期課程学生 (Mr. Bajracharya) である二人との研究会議をもつことによって、2017年2月1日あるいは2017年2月10日から活動を開始した。プロジェクトの目的は、ダマン語 (ネパール) とデンジョケ語 (シッキム、インド) の音声学と音韻論を研究することによって、これらの言語が使われているコミュニティのために新しい正書法を提案することである。毎週一回の研究会を開き、ダマン語と近隣の言語の音韻システムに関する文献と、正書法の開発に関する文献を精査した。Dr. Huang がダマン語、デンジョケ語ならびにチベット語とマナング語の音声学・音韻論のシステムに関するマテリアルを作成した。これらの言語はすべてチベット・ビルマ語族の言語である。さらに、研究会議ではネパール語とヒンディー語についても検討した。それぞれ、ネパールとインドの公用語であるばかりでなく、多くのダマン語とデンジョケ語のスピーカーにとっても共通語として使われているからである。

2017年3月27日から4月4日まで、研究代表者の Dr. Lee がスイスのベルンを訪問し、スイスチームと2017年6月と7月に行われる研究活動の詳細を決定した。さらに、ベルン大学の言語学科のセミナーで、Dr. Lee はチワン語の音声学・音韻論の分析の研究発表をした。この研究は、本プロジェクトの研究顧問である Dr. Jeremy Perkins と Dr. Julán Villegas との共同研究である。この発表では、音声学の研究があまり知られていない言語のトーンのシステムの研究にどのような指針を示すかを明らかにした。セミナー参加者の多くが多なる興味を示したが、その中にはベルン大学の大学院生もいた。今回のベルンへの訪問によって、このプロジェクトの進め方に関する計画が築かれたことは、今後のプロジェクトの展開に重要な役割を果たすものである。

また、2016年度の間、コンピュータならびに消耗品が購入されたことは、日本の研究チームがマテリアル作りを進める上で重要なことであった。

9. 研究発表（平成 28 年度の研究成果）

【雑誌論文】 計（ 0 ）件 うち査読付論文 計（ 0 ）件

相手国研究代表者との共著の有無*	著者名	論文標題			
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
				⋮	
	著者名	論文標題			
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
				⋮	
	著者名	論文標題			
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
				⋮	

【学会発表】 計（ 1 ）件 うち招待講演 計（ 1 ）件

発表者名	発表標題		
Seunghun Lee	The roles of phonation and F0 in Zhuang		
学会等名	発表年月日	発表場所	
Berner Zirkel	平成29年3月29日	Universität Bern	

【図書】 計（ 0 ）件

相手国研究代表者との共著の有無*	著者名	出版社		
	書名	発行年	総ページ数	
		⋮		

*相手国研究代表者との共著がある場合は○、相手国研究代表者との共著であり論文内に事業名を明記している場合は◎と記入した上で、明記されている箇所（頁、巻頭、巻末等）を記入。

*足りない場合は適宜行を追加して下さい。